

令和5年度 三郷市学校評価システム 本評価:学校関係者評価シート

評価項目	評価項目	No.	質問項目	学校自己評価結果	学校関係者評価結果	学校自己評価についての評価の説明及び学校の考え	
組織運営等の状況	教育目標	1	学校は、児童・生徒及び家庭・地域の実情を踏まえ、適切な目標を設定し組織的に取り組んでいる。★	3.68	4.00	目指す学校像「学びを紡ぎ 夢を叶える北中〜何かなる!」が合言葉、生徒行動目標を「あじさい運動」の北中 家庭では「ほしぶどう」とし、日々教職員一丸となって教育活動にあり、保護者・地域から一定の支持を受けている。	
		2	学校は、PDCAサイクル(計画・実行・評価・改善)のもと、学年・学級や教科・分掌等の経営にあたっている。	3.73		特に学期の途中でも節目となるタイミングで定期的の評価を実施し、適切に各分掌が動いているか教職員で自己評価できていると思われる。部分的にPDで終わっている部分もあるように感じるが、学年や学級経営は十分にできていると所属職員も実感している声がある。	
	特色ある学校づくり	3	学校は、特色ある学校づくりの観点から教育内容の重点化を図っている。	3.65		今年度の学校重点項目を「学びを紡ぎ!レベルアップ」と設定し、授業方向上と学力向上、家庭学習の充実+αとして積極的な生徒指導と働き方改革、ICTの効果的な活用を力をつけ、よりよい生徒の変容と日々の業務の効率化に務めた。	
		4	学校は、特色ある学校づくりのテーマのもと、教職員の共通理解を図り、「夢を育む教育」に組織的に取り組んでいる。★	3.60	4.00	読書活動の充実とチャレンジ3プラス活用による参加者増加、生徒に送る「校長賞」の深化、ボランティア活動の推進、2学年における職業体験の再開により、様々な機会を生徒自らの可能性と将来の展望に気づかせることができた。	
	資質向上	5	学校は、教職員の不祥事根絶をするための取組をしている。	3.83		毎週2回の職員打合せにおける校長通信「つむぎ通信」や毎月の職員会議における教頭からの「倫理確立委員会と服務研修」を充実させることができ、重大な教職員不祥事をゼロにした。	
		6	学校は、教職員の指導力向上に向け、計画的・組織的に研修に取り組んでいる。	3.68		大きな研修課題としては「学びを紡ぎ、夢を叶える授業の創造」としながらも、授業の取組として学年や専門教科を越えて実施した「ふらと参観(教員相互短時間授業参観)」等を日々推進し、機会があれば小中学校相互参観も進めることができた。授業における課題提示や毎時間の振り返り、生徒相互の主体的・協動的学習の推進により生徒の学習理解につながった。	
授業等の状況	学力向上	7	学校は、児童生徒の実態を把握し、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善に取り組んでいる。	3.75			
		8	学校は、日々の授業等を通して、児童生徒に基礎的・基本的な学力を身につけさせている。	3.83		各学習状況調査および学力検査において数値を伸ばした。3学年のみ教科によっては県・全国平均を下回るものもあったが、その教科(国語、英語)も、「学力の伸び」項目では県の伸び平均を上回っており、「備置値は県平均に届いていないが、昨年度と比較すると他校より大きく伸ばした状態」だとしている。	
	授業規律	9	学校は、教職員の共通理解を図り、「授業の心得」に基づき指導にあたっている。	3.73		三郷市の「授業の心得」や授業における学校ルール「北中basic」をもとに、規律ある落ち着いた雰囲気の中で授業を展開しており、教員も指導に自信をもっている。	
		10	学校は、児童生徒が落ち着いた雰囲気の中で学習できるように、授業を展開している。★	3.83	4.00	同上	
	読書のまち三郷	11	学校は、図書館経営を充実させ、読書活動を推進している。★	3.38	3.40	図書担当と学校司書が連携しながら朝読書の充実や季節・行事による図書レイアウト変更、出張貸出プログラムの実践など様々な取り組みを行った。しかしながら広く職員や生徒に広報できなかった部分もあり、評価ポイントとして十分な数値ではなかった。今後は日々の充実した取組を生徒・職員および保護者に周知し、読書に対する行動変容につなげていきたい。	
		12	学校は、児童生徒が主体的に読書活動に取り組めるよう指導している。★	3.35	3.40	学級文庫の充実や読み聞かせの実施などを新たに進めていきたいとの職員からの声があった。	
	健康・体力	13	学校は、規則正しい食事の大切さを理解させ、食に関する意識を高めようとしている。	3.58		養護や保健室手帳のもと規則正しい生活習慣の必要性について当事者意識を喚起する委員会活動等の工夫と、家庭からの強いバックアップにより、特に朝食をしっかりとる生徒がほとんどである。栄養教諭の食育学習や保健だより定期発行もできおり、生徒が本項目に関する意識向上に接する機会が多い。	
		14	学校は、児童生徒が体力向上に向け、授業や部活動・外遊びに意欲的に取り組めるよう指導している。★	3.75	3.60	生徒は昼休みによく外に出て力いっぱい運動しており、体育授業や運動部活動も進んで取り組んでいる状況にある。しかし、特別な取組というよりは日々の教育実践を確実にこなしているに留まる部分もあり、より意欲を喚起する指導を検討する余地も十分にある。	
	考え議論する	15	学校は、児童生徒や地域の実態に応じて、道徳教育の改善に取り組むとともに道徳教育を積極的に推進している。	3.53		特に道徳授業においては学年職員によるローテーション授業を実施し、それぞれの道徳的価値について担当の教員から一定以上の充実した授業展開ができた。しかしながら一律ローテーションで通すうえでの課題も見えてきており、弾力的に担任あるいは副担任の授業とするなど計画の見直しも必要であると考えられる。	
		16	学校は、教育活動全体を通して、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うとともに、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成に努めている。	3.60		自らを律し他を思いやることはあらゆる教育活動で各担当からしっかりと指導している。各活動で成果を出すよりも各活動をとと道徳的感覚を育成し人間的に成長することを重視し、その結果成果もともなう良好なサイクルをさらに強めていきたい。	
	指導・管理の状況	礼儀正しい児童生徒の育成	17	学校は、教職員が自ら手本となり、児童生徒に対し規範意識を高める指導を行っている。	3.58		率先垂範を合言葉に、生徒を正す以前にまずは自分からの精神で日々の業務にあたっている。また、生徒の日々の活動も教員は見届けるに留まることなく、時に生徒の先頭に立って一番に活動する姿も示す。
			18	学校は、児童生徒が友達や教職員・来校者に進んであいさつができるように指導している。★	3.88	4.00	本校生徒のあいさつは職員・生徒ともに誇りである。
19			学校は、児童生徒が「です、ます」をつける等、場に応じた言葉遣いができるよう指導している。	3.73		生徒はよく教員や大人との距離感や話し方を心得ている。教員側が生徒と接する際のフランクさに対して経験や考え方により若干の差が見られるため改善の重視すべきポイントとされている。教員間でもそうした声はあがっており、教員相互に注意し合える雰囲気や形成している。	
生徒指導		20	学校は、児童生徒の不登校や問題行動に対し、共通理解を図り組織的に対応している。	3.68		生徒のトラブル等が発生した際は、対応者が即学年職員および管理職に報告し、ただちに基本方針を検討した後、スピード感をもってチームで対応している。生徒指導・教育相談資料等も上手活用できている状況にある。若手が中心となる情報共有不足や個々の判断による指導も部分的にはあった。	
		21	学校は、保護者(必要に応じ関係機関)と連携を図り、児童生徒の指導にあたっている。	3.88		基本的には生徒のトラブル、気になる点(あるいはよい変化があったとき)は全て担任から保護者に連絡を入れている。また、本人をとりまく環境を含め今後の動きをともに検討し、強固な連携を築くことができている。	
		22	学校は、いじめの早期発見、早期対応に努めている。★	3.83	4.00	毎日のやりとり帳、定期実施している心と体のアンケート、何より日々の教員と生徒とのかわりの中で小さな気づきを大切に、教職員で情報共有している。	
安心・安全	23	学校は、事故やトラブルに対するマニュアルを作成・掲示し、迅速に対応できる体制を整えている。	3.60		昨年度と比較し、校内ネットワークを駆使しながら確実に安全点検と要配慮箇所への対応にあたる事ができている。市との連携もとれているが、時間的・金銭的等の理由からも色々な箇所の不具合について修繕が間に合っていない部分もある。		
	24	学校は、定期的に安全点検を実施し、計画的に安全指導を行う等、日頃から安全な教育環境づくりに取り組んでいる。★	3.78	4.00	安全点検の定期実施がしっかりと継続できた。また、避難訓練や不審者対応のための動画を独自に作成し、ネットワークを駆使して共有することができた。		
教育環境	25	学校は、清掃活動や掲示教育に力を入れる等、組織的に環境美化に取り組んでいる。★	3.53	4.00	清掃に真摯に取り組む生徒の意識と率先垂範する教員の意識により、整った教育環境を日々継続することができた。しかしながら部分的にはかなり古い掲示物等も見られるため、各分掌主任を中心に掲示・環境美化に取り組ませる。		
	26	学校は、組織的に働き方改革を進めている。	3.38		特に職員の時間外労働時間は年々確実に減少している。職員の意識としても変容を実感する声が多く聞かれる。しかしながら他校や他業種と比較すると十分でない部分もあり、まだまだ改善の余地がある。		
家庭・地域との連携	27	学校は、学校だよりやホームページ等で、教育活動の様子や成果・課題等について情報を発信している。★	3.95	4.00	校長を中心としたホームページの更新により、おそろ過去最高の閲覧者数をカウントするに至った。来年度からは学校だよりの地域配付を廃止し、ホームページへ学校だよりをアップすることを今年度末から地域に広報している。地域の意見も聞きながら進めているが現在のところトラブル等は一切ない。これらの相乗効果により、3学期はホームページの閲覧数が高い数値をキープしている。		
	28	学校は、保護者や地域と連携し、親の学習や学校応援団の活用を図っている。★	3.60	3.60	感染症への配慮と開かれた学校の高立が図られ、徐々に継続可能なオープンな教育活動になりつつある。親の学習も含めた各行事等も広く来校者を募る体制に戻りつつある。しかしながら、コロナ禍以前の来校者数に達しない部分もあり、特に地域を含めた諸活動はまだ寂しい状況でもある。		
	29	学校は、PTA活動や地域活動に積極的に協力している。★	3.75	3.40	特に、北中フェスタの半日実施が実現し、PTA・地域の連携をとった大きな取組が実現したことが成果である。		